

月刊 あなたにこの本を！ 平成 27 年 5 月号

大阪市立図書館 「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。



…字が大きめ



…中高生にも



…図・写真が多い

※価格のあとの()内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。



名画に見る男のファッション



中野京子 著
KADOKAWA 1500 円
(0012942322)

ジャンル : 知識・教養を深める

本書では、30 点の名画を取り上げ、そこに描かれた人物の衣装から、その時代の男性のファッションを考察する。フェルメール作の『地理学者』に描かれている男性が着用している青い上着は、日本からの舶来品である丹前との説が有力だという。ほかにもセーラー服が大流行した発端や、脚線美はかつて男性が誇るものだった等の興味深いエピソードが、人物や時代背景の説明とともに語られる。ユーモアあふれる語り口が楽しい、一風変わった名画観賞の書だ。〔723〕



人間、やっぱり情でんあ

竹本住大夫 著 樋渡優子 聞き書き
文藝春秋 1700 円
(0013288679)

ジャンル : 大阪にゆかりの本

先日惜しまれつつも引退した住大夫師匠が、人形浄瑠璃の語り部である「太夫」として語り続けた文楽人生 68 年を振り返る。芝居、映画三昧の幼少期や、入門後、国立文楽劇場が出来るまでの地方巡業の苦労話などのエピソードが満載だ。文楽は今も昔もかわらぬ人間の「情」を伝えるからこそ現代まで続いてきたと、その魅力が熱く語られる。後進育成に尽力する師匠による、温かみのある大阪ことばでつづられた文章からは、文楽への愛情がひしひしと感じられる。〔777.1〕



ニッポン周遊記 一町の見つけ方・歩き方・つくり方

池内 紀 著
青土社 2400 円
(0013011384)

ジャンル : 歴史・文化に親しむ

本書は、ドイツ文学者の著者が日本各地の 30 の町を訪ね歩き、町のたたずまいや人々の暮らしぶりをつづったエッセイだ。市町村合併や過疎によって疲弊する地方都市や農山村が多いなか、著者は、居住する土地の自然や歴史、文化に価値を見出した町づくりをおこなっている地域に着目した。観光スポットと人々の暮らしの場が融合している町こそ、訪れて楽しく、愛着がわくと著者は指摘する。青森県黒石市など豊かな歴史と文化にあふれた町の魅力が堪能できる。〔Eイケウ〕

女子高生の裏社会 —「関係性の貧困」に生きる少女たち—



仁藤夢乃 著
光文社 760 円
(0013086095)

ジャンル : 現代社会を見つめる

今、女子高生を売り物にした「JK産業」と呼ばれるビジネスが問題となっている。「JK」とは女子高生を略した言葉で、本書は、危険と思わず働く少女たちを取材したルポルタージュだ。家庭環境が不安定な子どもが多いと思いがちだが、近年スマートフォンやインターネットを介して普通の少女が入り込んでいる。彼女たちに必要なのは、信頼できる大人との関係性を作ることだと著者は指摘する。大人の目に触れにくい少女たちの現状をまとめ、解決策を探る。〔368.7〕

化学で「透明人間」になれますか？ —人類の夢をかなえる最新研究 15—



佐藤健太郎 著
光文社 820 円
(0013376613)

ジャンル : 知識・教養を深める

化学で人類の夢をどの程度かなえられるのかを、最新研究に基づき紹介する。「モテル薬はできますか？」から、「花粉症を治せますか？」という身近な問題、「エネルギー問題を解決したい」という地球規模の課題など、テーマは多岐にわたる。博士とその妻という架空のキャラクターが登場し、妻からの無茶な質問にもユーモア交じりに答えるという形式で、楽しく学ぶことができる。化学は新たな物質を作る唯一の分野で、さらに広がる可能性に気づかされる。〔430.4〕

ねこの秘密

山根明弘 著
文藝春秋 770 円
(0013222936)

ジャンル : 自然・環境を考える

長年にわたって、九州北部のねこが多数生息する島でその生態を調査した著者が、動物学や遺伝学などの様々な視点から「ねこの生き方」を解説する。毛色を決める遺伝子は解明されているが、深夜のねこの集会については、その理由は分かっていないという。また、野良ねこへの餌やりの結果、糞尿の被害や毎年 10 万匹のねこが殺処分される問題などを紹介し、解決策を提示している。ねこと人との幸福な関係を模索し実現したいという著者の思いが伝わってくる。〔645.7〕

金田一家、日本語百年のひみつ

金田一秀穂 著
朝日新聞出版 760 円
(0013094629)

ジャンル : 知識・教養を深める

本書は、著者がここ 10 年間に雑誌に掲載した日本語に関する文章と、国語学者の祖父金田一京助、父春彦についての随想をまとめたものだ。第 1 部では若者言葉など時代を反映した言葉の変化について考察する。第 2 部では祖父が家庭を犠牲にしてアイヌ語研究に没頭したことや、父が家族旅行中に方言調査に熱中したことなどの思い出をつづる。そこには父子間の心の葛藤と愛情が見え隠れし、二人と同じ日本語研究の道を歩むに至った三代目の思いが伝わってくる。〔810.4〕